

警察公論第 80 巻第 1 号付録「論文 2025」お詫びと訂正

本書の下記の箇所に誤りがありました。以下のとおり訂正し、深くお詫びいたします。

| | |
|------------------|-----------------------------------|
| P74 刑法 017 事後強盗罪 | |
| 誤 | 2 事例の検討 以下の検討から甲は事後強盗罪の刑責を負う |
| 正 | 2 事例の検討 以下の検討から甲は事後強盗未遂罪の刑責を負う |

| | |
|-------------------|---------------------------|
| P236 刑法 017 事後強盗罪 | |
| 誤 | 1 結論 甲は、事後強盗罪の刑責を負う。 |
| 正 | 1 結論 甲は、事後強盗未遂罪の刑責を負う。 |

| | |
|-------------------|---|
| P237 刑法 017 事後強盗罪 | |
| 誤 | 4 事例の検討 (2) 事後強盗罪 ア 甲は、Aが逃走を妨害してきたため、このまま捕まるわけにはいかないと して、Aを突き飛ばし、うずくまらせているので、窃盗犯人が、逮捕を免れ る目的で、相手方の反抗を抑圧するに足りる程度の暴行を加えたといえる。 イ 甲がAに暴行を加えたのは犯行直後のことであり、犯人を逮捕し得る状況 の存在する場合であったことから、窃盗の機会の継続中であるといえる。 ウ 以上から、甲には、事後強盗罪が成立する。 |
| 正 | 4 事例の検討 (2) 事後強盗罪 ア 甲は、Aが逃走を妨害してきたため、このまま捕まるわけにはいかないと して、Aを突き飛ばし、うずくまらせているので、窃盗犯人が、逮捕を免れ る目的で、相手方の反抗を抑圧するに足りる程度の暴行を加えたといえる。 イ 甲がAに暴行を加えたのは犯行直後のことであり、犯人を逮捕し得る状況 の存在する場合であったことから、窃盗の機会の継続中であるといえる。 ウ 甲は何も取らずに逃走しているので、窃盗は未遂にとどまる。 エ 以上から、甲には、事後強盗未遂罪が成立する。 |

以上